

NPO法人佐賀錦紗綾の会特別企画

令和3年度佐賀市地域文化保存・継承支援助成事業

江戸時代へのお誘い

佐賀の鍋島鹿島藩で始まった「お組物」は、明治時代、袋物商人によって「佐賀錦」と名付けられました。その名前は一般化され世界中に広がって行きました。そして流れて行く時代と共に佐賀錦の織り方はどんどん変化を続けました。昭和40年代前半まで使用されていた「中台」、そして現在使用されている「巻き台」も東京から伝わってきました。

鹿島藩に伝わった非常に稀有な織り機は、世界的にも比類するものがなく「平板」又は「まな板」と呼ばれ、そこにセットされた経（疋）糸は大変高価な「西の内紙」を用い、緯（ヨ）糸に紺土佐などを使用して織り模様を作ります。その後改めて、金銀箔を経糸とし、緯糸に絹糸を用いてコツコツと幾何学文様を織だされた作品が佐賀錦・鹿島錦です。

今回は佐賀県で生産された名尾和紙を用いて、「まな板」を使って佐賀錦を体験してみませんか？



場所 岡田三郎助アトリエ2階 日時 11月25日（木） 26日（金） 27日（土）

人数 各5名

佐賀城本丸本丸歴史館 日時 12月5日（日） 5名程度

山口亮一旧宅 日時 令和4年1月22日（土） 23日（日） 各5名

時間 10:30から15:30 材料費 1,500円

連絡先 井手美弥子 電話：080-2770-2066（事前に申し込むこと）

協力：佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授 石井美恵